

1. 試験目的 防除効果確認
2. 対象病害虫 オオタバコガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 常盤野字上黒沢 (2)実施農家 佐藤 好和
- (3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 藤田 静剛
- (5)概要
- 作物名 とうもろこし 品種 恵味
- 作型 栽培密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm
- 播種・定植日 播種 ・ 5月27日 (10a当たり 2,500 本)
- マルチ使用 無 収穫始め 8月22日
- (6)試験構成
- 試験面積 100 a (試験区 50 a 対照区 50 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
7月26日	ヨーバルフロアブル	5,000	200 ^{リットル}	7月26日	フェニックス顆粒水和剤	4,000	200 ^{リットル}
	ウララDF	4,000			ウララDF	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	多い	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性 あり

使いやすさ 対象区と同等のため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果確認

2. 対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 百沢字裾野 (2)実施農家 齊藤 稔幸

(3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 藤田 静剛

(5)概要
作物名 とうもろこし 品 種 ドルチェドリーム

作 型 栽培密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm

播種・定植日 播種 ・ 6月12日 (10a当たり 2,500 本)

マルチ使用 無 収穫始め 8月30日

(6)試験構成
試験面積 100 a (試験区 50 a 対照区 50 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
8月20日	ヨーバルフロアブル	5,000	200 ^{リットル}	8月20日	フェニックス顆粒水和剤	4,000	200 ^{リットル}
	ウララDF	4,000			ウララDF	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等に良く効いた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性 あり

使いやすさ 対象区と同等のため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 アブラムシ類、アザミウマ類、ネギコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 大秋 (2)実施農家 農事組合法人にしめや

(3)実施支店 目屋支店 (4)担当者 小笠原 亮

(5)概要

作物名 にんにく 品 種 白玉王

作 型 栽培密度 畦幅 120 cm 株間 15 cm

播種・定植日 播種 (10a当たり 15000 本)

マルチ使用 有 収穫始め 7月2日

(6)試験構成

試験面積 30 a (試験区 15 a 対照区 15 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月24日	ベネビアOD	2,000	30 ^{リットル}	6月24日	モスピラン (顆粒水)	2,000	30 ^{リットル}
	カスミンボルドー (水)	1,000	30 ^{リットル}		カスミンボルドー (水)	1,000	30 ^{リットル}
	シグナムWDG	1,500	30 ^{リットル}		ファンタジスタ (顆粒水)	3,000	30 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

両方とも同じくらいの効果だった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 アブラムシ類・アザミウマ類・ネギコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市大和沢 (2)実施農家 やさい育苗センター

(3)実施支店 育苗係 (4)担当者 奈良 浩照

(5)概要

作物名 にんにく 品種 畑園試系

作型 栽培密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm

播種・定植日 播種 ・ 9月14日 (10a当たり 14800 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月17日

(6)試験構成

試験面積 60 a (試験区 30 a 対照区 30 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月22日	ベネビアOD	2,000	150 ^{リットル}	5月22日	モスピラン水溶剤	2,000	150 ^{リットル}
	アグリマイシン水和剤	1,000			アグリマイシン水和剤	1,000	
	テーク水和剤	600			テーク水和剤	600	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

においは気にならない

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 問題無し

実用性

使いやすさ

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 黄斑病、さび病、葉枯病、白斑葉枯病
3. 試験内容
- (1)実施場所 大秋 (2)実施農家 農事組合法人にしめや
- (3)実施支店 目屋支店 (4)担当者 小笠原 亮
- (5)概要
- 作物名 にんにく 品種 白玉王
- 作型 栽培密度 畦幅 120 cm 株間 15 cm
- 播種・定植日 播種 (10a当たり 15000 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 7月2日

- (6)試験構成
- 試験面積 30 a (試験区 15 a 対照区 15 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月24日	ファンタジスタ(顆粒水)	3,000	30 ^{リットル}	6月24日	シグナムWDG	1,500	30 ^{リットル}
	ベネビアOD	2,000	30 ^{リットル}		モスピラン(顆粒水)	2,000	30 ^{リットル}
	カスミンボルドー(水)	1,000	30 ^{リットル}		カスミンボルドー(水)	1,000	30 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
さび病	普通	少ない	少ない
葉枯病	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

どちらとも病気の発生は少なかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

- 散布効果 同等
- 実用性 同等
- 使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 黄斑病・さび病・葉枯病・白斑葉枯病
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市大和沢 (2)実施農家 やさい育苗センター
- (3)実施支店 育苗係 (4)担当者 奈良 浩照
- (5)概要
- 作物名 にんにく 品種 畑園試系
- 作型 栽培密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm
- 播種・定植日 播種 ・ 9月14日 (10a当たり 14800 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 6月17日

- (6)試験構成
- 試験面積 60 a (試験区 30 a 対照区 30 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月1日	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000	150 ^{リットル}	5月1日	シグナムWDG	1,500	150 ^{リットル}
	ダイアジノン水和剤	1,000			ダイアジノン水和剤	1,000	
	アグリマイシン水和剤	1,000			アグリマイシン水和剤	1,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
さび病	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果は抜群

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 問題無し

実用性

使いやすさ

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 アザミウマ類・コナジラミ類・ハダニ類
3. 試験内容
- (1)実施場所 藤崎町西浅田 (2)実施農家 平山 貴大
- (3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 鳴海 清志郎
- (5)概要
- 作物名 ピーマン 品 種 京まつり
- 作 型 露地 栽植密度 畦幅 80 cm 株間 60 cm
- 播種・定植日 定植 ・ 5月14日 (10a当たり 1100 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 7月1日
- (6)試験構成
- 試験面積 8 a (試験区 4 a 対照区 4 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
8月1日	アグリメック	1,000	300 ^{リットル}	8月1日	スピノエース	5,000	300 ^{リットル}
	フルピカ	2,000	300 ^{リットル}		フルピカ	2,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アザミウマ類	多い	無	無
コナジラミ類	無	無	無
ハダニ類	少ない	無	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

去年気になった果面の汚れは全く気にならず、問題なく使用できた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

- 散布効果 対照区と同等。
- 実用性 対照区と同等。
- 使いやすさ 対照区と同等。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 アザミウマ類、ハダニ類、コナジラミ類

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市糠坪 (2)実施農家 棟方 利明

(3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 福田 静

(5)概要

作物名 ピーマン 品 種 京まつり

作 型 半促成 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm

播種・定植日 定植 ・ 5月3日 (10a当たり 1100 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月15日

(6)試験構成

試験面積 4 a (試験区 2 a 対照区 2 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
7月19日	アグリメック	1,000	300 ^{リットル}	7月19日	ディアナSC	2,500	300 ^{リットル}
	セイビアー(F)20	1,000	300 ^{リットル}		セイビアー(F)20	1,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アザミウマ類	普通	無	無
ハダニ類	無	無	無
コナジラミ類	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は見られなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等

実用性 対照区と同等

使いやすさ 対照区と同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 オオタバコガ、コナジラミ類、アザミウマ類

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市津賀野 (2)実施農家 小山内 正一

(3)実施支店 弘前中央支店 (4)担当者 佐藤 慎

(5)概要

作物名 ピーマン 品 種 京まつり

作 型 夏秋 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm

播種・定植日 定植 ・ 5月4日 (10a当たり 1100 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月15日

(6)試験構成

試験面積 8 a (試験区 4 a 対照区 4 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
7月28日	グレースシア乳剤	2,000	20 ^{リットル}	7月28日	ディアナSC	2,500	20 ^{リットル}
	フルピカフロアブル	2,000	20 ^{リットル}		フルピカフロアブル	2,000	20 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	少ない	無	無
コナジラミ類	無	無	無
アザミウマ類	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

尻部に少し白くなる実があるものの、許容範囲であった。防除効果に問題は無い。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 新規系統で対象害虫が広いため。

使いやすさ 溶けやすさは問題ない。白い薬斑も前年ほど気にならなかった。

(3)その他特記事項

ヨトウムシの発生が目立っていたが、前年同様良く効いていた。

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 オオタバコガ、コナジラミ類、アザミウマ類

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市糠坪 (2)実施農家 棟方 利明

(3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 福田 静

(5)概要

作物名 ピーマン 品 種 京まつり

作 型 半促成 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm

播種・定植日 定植 ・ 5月3日 (10a当たり 1100 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月15日

(6)試験構成

試験面積 4 a (試験区 2 a 対照区 2 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
8月20日	グレーシア乳剤	2,000	300 ^{リットル}	8月20日	ディアナSC	2,500	300 ^{リットル}
	アミスター20フロアブル	2,000	300 ^{リットル}		アミスター20フロアブル	2,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	普通	無	無
コナジラミ類	無	無	無
アザミウマ類	普通	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は見られなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等

実用性 新規系統なためローテーションに有効

使いやすさ 対照区と同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 ジュウシホシクビナガハムシ

3. 試験内容

(1)実施場所 藤崎町亀岡 (2)実施農家 伊藤 義光

(3)実施支店 弘前中央支店 (4)担当者 泉 荘

(5)概要

作物名 アスパラガス 品 種 スーパーウェルカム

作 型 ハウス立茎 栽植密度 畦幅 170 cm 株間 45 cm

播種・定植日 . (10a当たり 1,300 本)

マルチ使用 無 収穫始め 3月29日

(6)試験構成

試験面積 6 a (試験区 3 a 対照区 3 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月20日	ダコニール1,000	1,000	20 ^{リットル}	6月20日	ダコニール1,000	1,000	20 ^{リットル}
6月20日	グレーシア乳剤	2,000	20 ^{リットル}	6月20日	アフーム乳剤	2,000	20 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ジュウシホシクビナガハムシ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

試験区、対照区ともに被害は少なく違いは見られなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等。

実用性 対照区と同等。

使いやすさ 対照区と同等。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 ヨトウムシ・オオタバコガ・アザミウマ類・ジュウシホシクビナガハムシ

3. 試験内容

(1)実施場所 大鰐町苫木 (2)実施農家 成田 勝也

(3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 小堀 一人

(5)概要
作物名 アスパラガス 品 種 ゼンユウガリバー

作 型 栽培密度 畦幅 70 cm 株間 40 cm

播種・定植日 . (10a当たり 1470 本)

マルチ使用 無 収穫始め 5月1日

(6)試験構成
試験面積 10 a (試験区 5 a 対照区 5 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6月17日	グレーシア乳剤	2,000	15 ^{リットル}	6月17日	アファーム乳剤	2,000	15 ^{リットル}
7月25日	グレーシア乳剤	2,000	15 ^{リットル}	7月25日	コテツ (F)	2,000	15 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ヨトウムシ	少ない	無	無
オオタバコガ	少ない	無	無
アザミウマ類	少ない	無	無
ジュウシホシクビナガハムシ	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果としては同等であるが、選択枝が増えて良いと思う。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 オオタバコガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市百田 (2)実施農家 工藤 千輝
- (3)実施支店 弘前中央支店 (4)担当者 佐藤 慎
- (5)概要
- 作物名 ピーマン 品 種 京まつり
- 作 型 夏秋 栽植密度 畦幅 60 cm 株間 70 cm
- 播種・定植日 定植 ・ 5月26日 (10a当たり 1100 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 7月9日

- (6)試験構成
- 試験面積 10 a (試験区 5 a 対照区 5 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
7月27日	アクセルフロアブル	2,000	20 ^{リットル}	7月27日	コテツフロアブル	2,000	20 ^{リットル}
	アフェットフロアブル	2,000	20 ^{リットル}		アフェットフロアブル	2,000	20 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果に問題は無かった。果実の汚れなども見られなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

- 散布効果 対照区と同等のため
- 実用性 新規系統でローテーションに有望だが、適用害虫は少ないため
- 使いやすさ 対照区と同等のため

(3)その他特記事項

散見されていたヨトウムシに対しても、効果が見られていた。

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市糠坪 (2)実施農家 棟方 利明

(3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 福田 静

(5)概要

作物名 ピーマン 品 種 京まつり

作 型 半促成 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm

播種・定植日 定植 ・ 5月3日 (10a当たり 1100 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月15日

(6)試験構成

試験面積 4 a (試験区 2 a 対照区 2 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
7月22日	アクセルフロアブル	2,000	300 ^{リットル}	7月22日	コテツフロアブル	2,000	300 ^{リットル}
	アフエットフロアブル	2,000	300 ^{リットル}		アフエットフロアブル	2,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等

実用性 対照区と同等

使いやすさ 対照区と同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 アブラムシ類
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市津賀野 (2)実施農家 小山内 正一
- (3)実施支店 弘前中央支店 (4)担当者 佐藤 慎
- (5)概要
- 作物名 ピーマン 品種 京まつり
- 作型 夏秋 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm
- 播種・定植日 定植 ・ 5月4日 (10a当たり 1100 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 6月15日
- (6)試験構成
- 試験面積 8 a (試験区 4 a 対照区 4 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月21日	トランスフォームフロアブル	2,000	20 ^{リットル}	6月21日	コルト顆粒水和剤	4,000	20 ^{リットル}
	アミスター20フロアブル	2,000	20 ^{リットル}		アミスター20フロアブル	2,000	20 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果に問題は無かった。散布後の果実の汚れは対照区より少ないため使いやすい。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	4	3

(2)評価の理由

- 散布効果 対照区と同等のため
- 実用性 対照区と同等のため
- 使いやすさ 果面汚染が少ないため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 アブラムシ類
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市糠坪 (2)実施農家 棟方 利明
- (3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 福田 静
- (5)概要
- 作物名 ピーマン 品種 京まつり
- 作型 半促成 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm
- 播種・定植日 定植 ・ 5月3日 (10a当たり 1100 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 6月15日
- (6)試験構成
- 試験面積 4 a (試験区 2 a 対照区 2 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月21日	トランスフォームフロアブル	2,000	300 ^{リットル}	6月21日	コルト顆粒水和剤	4,000	300 ^{リットル}
	アミスター20フロアブル	2,000	300 ^{リットル}		アミスター20フロアブル	2,000	300 ^{リットル}

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等

実用性 新規成分なためローテーションに有効

使いやすさ 対照区と同等

(3)その他特記事項